

災害に強いまちを目指す

東日本大震災により、改めて防災・減災への対策が重要視される中、亀岡市においても、さらに安全・安心のまちづくりを目指して、地域版ハザードマップの作製や、防災パトロールが行われています。

地域版ハザードマップ

曾我部町・宮前町・東本梅町では、地域内の災害危険箇所や避難場所などを把握し、地域防災力の強化を図ろうと「地域版ハザードマップ」が作製されました。すでに完成している本梅町・千代川町・亀岡地区東部・西つづじヶ丘と合わせると、市内の7町で地域版ハザードマップが完成したことになります。

これらは自主防災会や住民の皆さんが実際に現地を歩き、身近に存在しているさまざまな危険箇所を見付け出して作られました。



新たに完成した地域版ハザードマップ

に住む高齢者から聞き取った天気に関する言い伝えを「お天気の知恵袋」として掲載す

防災パトロール

5月24日、保津町、千代川町、曾我部町内の6箇所で行った防災パトロールを実施しました。このパトロールは、毎年梅雨前の時期に、市内で想定される土砂災害などの危険箇所を調査するものです。当日は、南丹広域振興局、南丹土木事務所、亀岡警察署、亀岡消防署、亀岡市消防団、亀岡市から16人が参加。危険箇所や防災関係施設



△防災パトロールの様子(5月24日・保津町)

設を見回り、現地の状況などを確認しました。

災害への関心が高まる今、私たち一人ひとりが防災への意識を高めていくことが重要です。今後も亀岡市は、市民の皆さんや防災関係機関と協力して、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

第71回丹波学トーク

「京都丹波妖怪文化論」

～世界に誇る日本文化～

6月19日、ガレリアかめおかで、第71回丹波学トークが開催されました。今回は全国でも唯一、妖怪文化論の講座を開講している京都学園大学歴史民俗学専攻教授の佐々木高弘さんが「京都丹波妖怪文化論」をテーマに講演。

佐々木教授の「妖怪は、存在しないという前提のもと、人々が不安に感じる現象のもとで形作られたものであり、地域の自然環境や風土とも密接な関係があります。これら独特の世界観は、誇るべき日本文化と言えます」との話に約100人の受講者は興味深く耳を傾けていました。



△「妖怪は誇るべき日本文化」と話す佐々木高弘教授

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

味深く耳を傾けていました。

約100人の受講者は興味深く耳を傾けていました。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

京都丹波妖怪文化論は、これから2年間6回に分けて開催される予定です。ぜひ、皆さんもご参加ください。

取材レポート

アユモドキがたくさん!?



△一時的に干上がった川からアユモドキを救出します

6月4日、国の天然記念物で、絶滅の危機にあるアユモドキの保護調査活動が、亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会を中心に保津川支流で行われ、私も取材に出かけました。田んぼに水を送るため、一時的に川が干上がった状態になる場所での約1時間の救出作業で149匹ものアユモドキを保護し、無事に産卵場所へと移すことができました。実際にたくさんのアユモドキを目の前になると、絶滅の危機にある貴重な魚であることを忘れてしまいそうです。



△愛らしいアユモドキを守りたい

魚の駆除作業や、密漁を防止するためのパトロールを行って監視を強化するなどしています。アユモドキと、アユモドキが生息する亀岡の自然環境をみんなで見守っていくことの重要性を感じた一日でした。

しかし話を聞くと、最低でも成魚500匹以上の生息がその個体群を安定させるための条件だそうです。一昨年に生まれた推定2300匹もの多くの稚魚が、今年は繁殖活動をする年となっており、個体数の増加に大変期待が持てます。ただ、依然として外来魚による捕食や生息所の環境の変化、心無い密漁の被害など、アユモドキを取り巻く状況は厳しいものがあります。対策として地元、NPO、行政などの協力によって外来魚の駆除作業や、密漁を防止するためのパトロールを行って監視を強化するなどしています。

飾る・目立つ・競う

文化財めぐり ③ 亀岡の国民文化祭を知る



△佐伯灯笼の派手やかな台灯笼

国文祭のキーワードの一つに「風流」があります。「ふうりゅう」は雅びやかで、風情のあるものを表現するときに使われますが、「ふうりゅう」は中世、美しい細工を施したり、あっと驚かすために意匠を凝らすことを表現する際に使われました。亀岡の民俗芸能を見てみると、趣向を凝らして灯笼を派手やかに飾る佐伯灯笼は、まさに風流灯笼といえます。中世の公家たちがお盆に宮中へ

献上したこの風流灯笼には、音の鳴るものやからくり仕掛けなどの趣向を凝らした灯笼が多く、他の公家たちに負けたくないという競争心がつながりました。献上された灯笼は宮中で飾られた後、下賜されました。それらの灯笼を使って、佐伯灯笼が始まったと伝えられています。人形浄瑠璃の印象が強い佐伯灯笼ですが、その舞台に使われる台灯笼は、東北のねぶたと同様に灯笼なのです。そこには、派手やかに飾ることによって、観客を楽しませ、驚かせようとする意識が感じられます。まさしくこの美意識こそが、風流なのです。人の目を引きつける華やかな衣装・花笠の出雲風流花踊りや絢爛豪華な懸装品で飾られる亀岡祭なども同じ風流の精神が流れています。このような見せる者の意気込みを期待して、見る者は祭り見物に出かけるのです。皆さんにもぜひ、この心意気を味わっていただきたいと思えます。